

【櫻井靖之先生抄録】

歯科技工業界におけるデジタルトランスフォーメーションの勧め

近年、歯科治療にデジタル機器が取り入れられるようになり、我々の行う技工業務においても従来の作業の多くがデジタル化に変化してきている。例えば、ハンドメイドで行われていたワックスアップは CAD ソフト上での作業となり、また鋳造に変わり切削加工機による加工が主たる作業となっている。それにより作業効率の向上などに一定の結果を得ていることは周知の事実である。但し、デジタル化とは、IT ツールの導入やデジタルデータ・デジタル技術の導入の活用など『戦術』であり、トランスフォーメーション『変化』とは、組織改革やビジネスモデルの変革のことである。この 2 つが併せ持つて、DX(デジタルトランスフォーメーション)と言われている。

以上を踏まえた上で、弊社が取り組んでいる DX 化『戦略』(歯科治療の質の向上、作業効率のアップ)を紹介したい。

【井上陽介先生抄録】

歯科治療における歯科技工士の役割 『これからの時代を踏まえ考えなければならないこと』

近年、歯科業界におけるデジタルの進歩は著しく、特にクラウン・ブリッジの補綴装置を製作する工程においては大きく変化している。

また、多くの優れた材料の開発によって、従来に比べ、より簡単に効率よく審美性の高い補綴装置の製作が可能となっており、このような新しい技術や材料を上手く活用することで多くの恩恵を得ることが出来ると感じている。しかしその反面、最新の機材や材料を使用することが良好な治療結果につながるのではないかと思われる。患者にとって必要とされる補綴装置の目的や考え方などは変わっておらず、先人の方々からの教を継承しながら、新しい技術への対応をしていくことが必要とされると考える。

そこで今回、歯科治療に携わる歯科技工士として、どのようなことを考え補綴装置の製作を行う必要があるかを臨床例を用いて解説したい。